

## 2021 年度ゼミ (3003 演習 2A/3004 演習 2B) 要覧

担当者名	趙 星銀 (ちょ・さんうん)
演習テーマ	個人の「自由」はどこまで許されるのか
校外実習	1、実施しない
メール・アドレス	scho@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	月曜 2 限 (2020-2021 年度は Teams または Zoom にて行う。メールで予約すること。)
2022 年度に開講 しない可能性 (在外研究・特別研究)	ない
授業概要	<p>個々人が国家の干渉や制約を恐れず、自由に物事を考え、それを自由に表現できる権利、つまり言論と思想の自由の保障は、自由な民主社会の必須条件です。</p> <p>しかしそもそも個人の自由はどのような根拠から価値あるもの、守るべきものと考えられているのでしょうか。そして個人の自由に限界はないのでしょうか。たとえば社会的に弊害の大きいヘイトスピーチやフェイクニュース、人種差別的な言説も、言論の自由として無限に認められるべきでしょうか。</p> <p>このゼミでは、自由主義の古典的名著である J. S. ミルの『自由論』を読みながら、個人の自由、特に言論と思想の自由はなぜ擁護されるべきか、また個人の自由と社会的責任はどのような関係にあるか、そして個々人の自由の限界はどのような原理によって決定づけられるか、などの問いについて考えます。19 世紀自由主義の古典的な考え方を理解しつつ、それを 21 世紀の社会問題に照らし合わせて、政治的自由をめぐる諸問題に関する思考を深めていきたいと思えます。</p>
学習目標	<p>1) <b>理解する力</b> 言葉が頭を素通りしていかないように、文献を丁寧に読む訓練をする。テキストから得た知識を自分のものにする。</p> <p>2) <b>説明する力</b> プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の考えを他の人にわかりやすく説明できるコミュニケーション力を身につける。</p> <p>3) <b>批判する力</b> 文献を批判的に分析し、より良い社会を展望する眼を養う。</p>
授業計画	<p>春学期</p> <p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 J. S. ミルと On Liberty : 人と著作</p> <p>第 3~4 回 自由 liberty と権威 authority との争い</p> <p>第 5~6 回 多数者の専制 tyranny of majority</p> <p>第 7~8 回 正義 justice と功利 utility 「一億総中流」から「新たな二重構造」へ</p> <p>第 9~11 回 思想と言論の自由</p>

	<p>第 12～14 社会の幸福と個性 第 15 回 まとめ</p> <p>秋学期 第 1 回 ガイダンス 第 2～3 回 個人に対する社会の権威 (1) 第 4～5 回 個人に対する社会の権威 (2) 第 6～7 回 適用 第 8～10 回 『自由論』 への批判 第 11～14 回 現代的課題の検討 第 15 回 まとめ</p>
予習	テキストを読み、コメントペーパー (1000-2000 字程度) を提出する。
復習	各自の興味や疑問について参考文献を参照しながら整理しておく。次回提出するコメントペーパーに前回の振り返りを記す。
授業に関する注意事項	参加者は全員、1 回以上のプレゼンテーションを担当する。授業は参加者の報告とディスカッションを中心に行われる。
教科書	J.S. ミル著、関口正司訳『自由論』岩波文庫、2020 年
参考書	J.S. ミル著、朱牟田夏雄訳『ミル自伝』岩波文庫、1960 年 その他の参考書は授業中に紹介する
成績評価の基準	プレゼンテーション 30% コメントペーパーと授業への参加度 30% 学期末課題 40%
関連 URL	<a href="https://youtu.be/1igHKTv6M1I">https://youtu.be/1igHKTv6M1I</a> 授業のガイダンス動画
備考	